

## Study Abroad Case 1

# 「自分の軸」を持てた留學生活

望月 珠里

3年の前期から10カ月間、アメリカオレゴン州ポートランド州立大学に留學しました。留學した理由は、まず、英語を習得したかったからです。また、国際関係論を専攻し、テレビの政治討論番組でアルバイトをしていた経験から、**日本社会を外から勉強**してみたいと考えていました。留學を考え始めたのは2年生になってからだったため、申込みから出発までの期間が短く、**3年の春学期に出発すれば4年で卒業ができるプログラム**を提供していたポートランド州立大学を選びました。

ポートランドは街並みが綺麗で治安も良く、留學中は学外コミュニティに参加するなど課外活動も充実させることができました。とは言え、アメリカ人のルームメイトとの寮生活、ディスカッション形式で進む授業、大量の予習など、初めは慣れないことばかりで余裕のない日々を送りました。現地の学生とのグループワークで、自分が足を引っ張っていると感じ落ち込むこともありましたが、考えが変わったのは、異文化交流に関するディスカッション中、日本人留學生の自分だからこそ言える意見があると気付いたときでした。たとえ英語は拙くても、意見の中身は他の誰にも言えないことだと**聞き直すことで、気負わずに発言できるよう**になっていきました。



このことから、アメリカにおける日本文化により強い興味を持ち、現地の剣道道場を自分で探して通ったり、**日本領事館でインターン**をしたりと課外活動にも取り組むようになりました。特に、剣道道場では唯一人の日本人として指導を任されることもあり、日本で10年間続けてきた**剣道を異国の人々に伝える**という貴重な体験ができました。市民大会にも出場し、団体戦で優勝という結果を残せました。このときのチームメイトには職場でインターンを経験させてもらい、現在でも連絡を取り合う良い友だちになりました。

学校と課外活動、遊びとで忙しい毎日でしたが、興味のあることすべてに全力で挑戦しとても充実した留學生活でした。留學の軸となっていた「日本人として海外と関わる」ことはそのまま就職活動でも軸となり、自分の進路を見つけることができました。当初の目的だった英語の習得と、**日本を外から見つめ直す**ことに加え、**異国でも自分を出せる自信、世界各国出身の友人たち**というより**大きな財産**を得ることができました。

留學にあたっては費用、言葉など不安要素がたくさんあると思います。それでも、今しかできない学生時代の留學経験は、絶対に単なる言語の習得以上の財産となります。迷っているならぜひ飛び込んでみてください。



**Personal Data** 望月 珠里 (もちづき じゅり)

留學先：ポートランド州立大学 (米国) TSA プログラム

留學期間：2014年4月～2015年3月 (留學時の学年：3年生)

ゼミナール：国際協力と平和構築 (山田満ゼミナール) 所属

卒業後の進路 (予定)：総合商社 内定